

科目名	産業保健学特論	code number : OEH 231	選択必修	1 単位
-----	---------	--------------------------	------	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

### 1. 授業の概要

労働を取り巻く環境に対する社会の要求がより厳しくなるなか、事業者の期待に応えられるだけの高い能力を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職等の必要性が高まっている一方で、特に実務能力に関して高度な教育・訓練を受ける機会を提供できる機関は絶対的に不足している。そこでこうした社会的要請に応えられるだけの実践的な専門知識を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職を育成するためのカリキュラムを提供する。ケースを踏まえた議論も行い、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学ぶ。選任産業医のみならず専属産業医としてももちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍できる人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業看護職、産業衛生技術職としての人材育成を目指す。

### 2. 授業の到達目標

#### 【一般目標 (GIO)】

1. 産業医・産業看護職・産業衛生技術職など産業保健(労働衛生)を専門とする者が、当該領域の経験や知識を体系化し、より高度な専門実務能力を身につけ、産業現場の問題を解決できる。

#### 【行動目標 (SBO)】

1. 労働基準法・労働安全衛生法を中心とする労働法の重要な考え方を理解し、活用できる。
2. 産業保健の5管理:作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、管理方法を適用できる。
3. 健康診断結果等のデータを解析し、職場の産業保健活動に活用できる。
4. 産業医、産業看護職、産業衛生技術職等の職務を理解し、共同して産業保健活動ができる。

### 3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 議論への参加(10%)

### 4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

### 5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2017.

### 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』を通読する。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

### 7. その他履修上の注意事項

- ・講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。

<授業計画>

産業保健学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/22(金)	1	原 邦夫 教授	産業保健学とは何か ・安全配慮義務／労働安全衛生法令と5管理／産業保健専門職の役割
2	9/22(金)	2	谷原 真一 教授	総括管理 労働衛生スタッフとの連携
3	9/25(月)	1	谷原 真一 教授	職場のデータ管理・分析 (健康診断データなどの具体的なデータの取り扱い)
4	9/25(月)	2	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用1
5	10/2(月)	1	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用2
6	10/2(月)	2	谷原 真一 教授	健康管理1 (休職者復職支援)
7	10/13(金)	1	小木 和孝 教授(客)	産業保健の世界動向
8	10/13(金)	2	吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 人間工学を利用したメンタルヘルスの一次予防対策の「職場ドック」方法による職場の良好事例に学ぶ取り組み
9	10/16(月)	1	福田 吉治 教授	健康管理2
10	10/16(月)	2	福田 吉治 教授	職場巡視・安全衛生委員会
11	10/23(月)	1	福田 吉治 教授	メンタルヘルス対策
12	10/23(月)	2	福田 吉治 教授	各種専門職の役割 (産業保健専門職のマネジメント能力、産業看護職の役割)
13	10/30(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令の体系 作業環境管理(労働衛生工学)
14	10/30(月)	2	中原 浩彦 講師(非)	作業管理
15	11/6(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生マネジメントシステムとリスク判定 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準

D  
P  
H

科目名	産業環境工学特論	code number : OEH 232	選択必修	1 単位
-----	----------	--------------------------	------	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

## 1. 授業の概要

作業環境および一般環境から人を守るためには、環境からの有害影響をその要因から理解するとともに、それらの測定・評価・対策を実施することが重要である。作業環境に存在する様々な有害要因の測定・評価を理解した上で、具体的なケースに基づいて、選択すべき環境制御技術について学習する。一般環境管理につながる産業工学分野の方法として、作業環境管理・作業管理で用いられる物質の代替、局所排気装置や全体換気装置等の工学的対策、作業方法、ならびに保護具の使用等について学習する。さらに国際的な化学物質の有害性とラベルの調和システム(国連GHS勧告)に基づくリスク管理方法についても学ぶ。

## 2. 授業の到達目標

## 【一般目標(GIO)】

1. 作業環境の有害要因の測定および管理で現在行われている作業環境測定および曝露測定の仕組みや排気システム、作業管理として行われている作業時間の管理や作業方法の改善、さらに国際的な化学物質の有害性とラベルの調和システムに基づく管理方法について学習することを通して、作業環境管理および作業管理のために選択すべきリスク管理方法を決定できる。

## 【行動目標(SBO)】

1. 作業環境の測定および評価について理解し、活用できる。
2. 有害要因の個人ばく露測定について理解し、活用できる。
3. 局所排気装置の原理を理解し、基礎的な事項についてアドバイスできる。
4. 化学物質の有害性分類の国連GHS勧告の内容を理解し、化学物質のリスク管理のための有害性情報を入手できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 発表等の主体的学習態度(20%)

## 4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

## 5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2017.

## 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』を事前に読んでおく。
- ・当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

## 7. その他履修上の注意事項

- ・講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	4	原 邦夫 教授	日本式産業保健(労働衛生)の3管理・作業環境管理と管理区分および対策の手順・作業環境管理／・作業管理／・健康管理／／・代替／・工学的対策／・保護具
2	9/27(水)	4	原 邦夫 教授	暴露推定モデルの活用方法 局所排気装置I(局所排気装置の概要, 計算演習, 風量測定・評価)
3	10/4(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(ハザード情報の収集, 国連GHS勧告によるハザード分類)
4	10/11(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(コントロールバンディング)
5	10/18(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(ばく露測定, ばく露とばく露限界値との比較, LOAELなどからばく露限界値の推定方法等)
6	10/25(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	産業保健(労働衛生)の専門職のあり方
7	11/1(水)	4	原 邦夫 教授	局所排気装置(局所排気装置の概要, 計算演習, 風量測定・評価)
8	11/8(水)	4	中原 浩彦 講師(非)	保護具・人間工学的対策

D  
P  
H

科目名	産業中毒学特論	code number : OEH 251	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 3,4時限	授業方法	講義

## 1. 授業の概要

産業現場でひとが有害要因に曝露することにより特異的、非特異的な健康障害が引き起こされることがある。このコースでは代表的な産業有害要因について現場での曝露態様、管理、規制および新規の問題の発見と研究について考える。受講にあたっては一定の基礎知識と能力および毎回の事前準備が必要であるので、履修しようとする者は科目責任者と事前の話し合いを持つこと。

## 2. 授業の到達目標

## 【一般目標(GIO)】

1. 有機溶剤、重金属など代表的な産業有害要因による健康障害について、医・生物学的な基礎からその機序を理解する。
2. 産業有害要因による健康障害の毒性学的な機序の理解に立ってその診断・検査・管理を考えることができる。
3. 産業現場における新たな健康障害発見の事例を学び、法律制度を超えた有害要因への対応ができる専門職能力の養成を目指す。

## 【行動目標(SBO)】

1. 代表的な産業有害要因による健康障害について、医・生物学的な基礎からその機序を説明できる。
2. 産業有害要因による健康障害の診断・検査・管理を毒性学的な機序と関連付けて説明できる。
3. 産業現場における新規の健康障害事例に対し、その原因同定や対策のために行うべき調査研究を立案できる。
4. 産業有害要因の許容濃度、管理指針作成のために考慮すべきことを列挙できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 議論への参加(10%)

## 4. 教科書・テキスト

- ・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.
- ・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.

## 5. 参考書

- ・中央災害防止協会. 目で見える職業病と労働環境
- ・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.

## 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold. の該当箇所を事前に読んでおく。
- ・講義日ごとに6時間以上の予復習が必要。

## 7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/15(水)	3	矢野 榮二 教授	許容濃度、管理濃度、IARC発がん分類 (総論)
2	11/15(水)	4	矢野 榮二 教授	許容濃度、管理濃度、IARC発がん分類 (事例研究)
3	11/22(水)	3	中原 浩彦 講師(非)	環境因子による健康障害の評価と管理 (総論)
4	11/22(水)	4	中原 浩彦 講師(非)	環境因子による健康障害の評価と管理 (事例研究)
5	11/29(水)	3	矢野 榮二 教授	現場見学(日産横浜工場を予定) (総論)
6	11/29(水)	4	矢野 榮二 教授	現場見学(日産横浜工場を予定) (事例研究)
7	12/6(水)	3	矢野 榮二 教授	金属、発がん物質 (総論)
8	12/6(水)	4	矢野 榮二 教授	金属、発がん物質 (事例研究)
9	12/13(水)	3	宮川 宗之 教授	生殖毒性 (総論) (宮川・医療技術学部スポーツ医療学科/教授)
10	12/13(水)	4	宮川 宗之 教授	生殖毒性 (事例研究) (宮川・医療技術学部スポーツ医療学科/教授)
11	12/20(水)	3	熊谷 信二 講師(非)	石綿工場周辺住民の中皮腫 (総論)
12	12/20(水)	4	熊谷 信二 講師(非)	石綿工場周辺住民の中皮腫 (事例研究)
13	12/27(水)	3	村田 勝敬 講師(非)	ベンチマークドース (総論)
14	12/27(水)	4	村田 勝敬 講師(非)	ベンチマークドース (事例研究)
15	2/7(水)	3	矢野 榮二 教授	まとめ

科目名	環境保健学特論 I	code number : OEH 212	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 1時限	授業方法	講義・演習

## 1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を体系的に理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解することを狙いとする。また、日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に理解することも狙いとする。

## 2. 授業の到達目標

## 【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を含めて例を挙げて説明することができる。

## 【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを理解し、環境リスク管理に活用できる。
2. 有害性の特定、曝露評価、量反応関係およびリスク判定の基本的な考え方を理解し、活用できる。
3. リスクコミュニケーション方法について理解し、活用できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

## 4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

## 5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—、コロナ社、2011.
- ・中西準子, 他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店、2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

## 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

## 7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

環境保健学特論 I

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	1	原 邦夫 教授	環境保健学とは ・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
2	9/27(水)	1	原 邦夫 教授	リスク管理の考え方 ・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSHH Essentialsなど)
3	10/4(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	有害性の特定 ・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
4	10/11(水)	1	原 邦夫 教授	量反応関係評価 ・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
5	10/18(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	曝露評価 ・曝露とは何か・環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
6	10/25(水)	1	原 邦夫 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度、環境基準など様々な基準
7	11/1(水)	1	原 邦夫 教授	環境疫学 ・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
8	11/8(水)	1	原 邦夫 教授	リスクコミュニケーション ・ラベル化とSDS／・ファンリテーター論

D  
P  
H

科目名	環境保健学特論Ⅱ	code number : OEH 213	選択	1 単位
-----	----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 1時限	授業方法	講義

## 1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。「環境保健学特論I」で学んだ環境リスク論を踏まえ、現在注目されている環境有害要因への詳細な対策事例を紹介することで、環境保健に対する深い理解を促し、他の環境有害要因への対策検討ができるようになることを狙いとする。

## 2. 授業の到達目標

## 【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を検討できる。

## 【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを環境リスク管理に活用できる。
2. 環境マネジメントシステムについて理解し、活用できる。
3. 産業保健および環境保健上の大きな問題になっているアスベスト(石綿)について深い理解を得て、対策に活用できる。
4. 神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価について詳しく学び、毒性学の考え方を活用できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

## 4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

## 5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—, コロナ社, 2011.
- ・中西準子, 他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店, 2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

## 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

## 7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

環境保健学特論Ⅱ

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/15(水)	1	原 邦夫 教授	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
2	11/22(水)	1	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
3	11/29(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅰ ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
4	12/6(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅱ ・石綿のリスクと対策
5	12/13(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅲ ・国の豊かさと対策の関係性
6	12/20(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学Ⅰ ・国連GHS文書の分類基準と実際の分類作業の紹介 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄；解毒代謝／・PBPKモデル
7	12/27(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学Ⅱ ・神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価(OECDガイダンス文書等に記載された生物試験法・行動試験の紹介)
8	2/7(水)	1	原 邦夫 教授	現在の環境問題のまとめ

D  
P  
H

科目名	特別講義(産業環境保健学の展開 I～III)	code number : OEH 401～403	選択	1 単位
-----	------------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	Rose Goldman 客員教授(※)						
配当年次	1年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

## 1. 授業の概要

エネルギー消費量の増大により地球温暖化が進むなど、ヒトの健康への環境の影響が大きくなっている。環境保健の基本的コースとして、毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題について、評価し政策決定できることを目指す。

事前に教科書の関連する章を読む予習を前提に、ケースを用いてグループ討論をする。また、参加者自身の国および居住地域の環境相互関係や、他の要因(年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙など)の修飾影響について理解を促す。

## 2. 授業の到達目標

## 【一般目標(GIO)】

1. 環境保健の基本的な考え方および方法を学び、その考え方や方法を実際の環境問題に適用できる。

## 【行動目標(SBO)】

1. 環境有害要因のヒトの健康への影響を理解し、説明できる。

2. 環境保健の基礎として毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、説明できる。

3. 大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題に対して対策案を検討できる。

4. 環境有害要因によるヒトへの健康有害影響に対する、年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙などの修飾要因の影響を評価できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、グループ討議・発表等への積極的参加で10%程度加算する。

## 4. 教科書・テキスト

・Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016

## 5. 参考書

・関連する読むべき資料を専用ホームページに掲載する。

## 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・事前にテキスト「Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016」や、専用HP上に公開される講義用資料を授業前に読んでおく。

・当日の講義内容に関連するキーワードの概念を理解して講義に臨む。

・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

## 7. その他履修上の注意事項

・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。

・積極的なグループ討論への参加を求める。

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。

・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

(※)年度により開講内容が異なる場合があり、I～IIIのいずれかを開講する。

(※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

(※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/25(木)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境保健学入門(ケース1:妊婦はツナ缶を食べるべきか?)
2	1/25(木)	2	Rose Goldman 教授(客)	中毒学(基本的な中毒学、ケース2:妊婦はツナ缶を食べるべきか?(継続))
3	1/26(金)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境疫学と大気汚染(ケース3:各地のPM2.5濃度と死亡率への影響、その発生源および対策)
4	1/26(金)	2	Rose Goldman 教授(客)	リスクアセスメントと政策決定(ケース4:妊婦はツナ缶を食べるべきか?水銀の影響と魚摂取の効果(継続))
5	1/27(土)	1	Rose Goldman 教授(客)	産業保健:災害防止(ケース5:Haddon Matrixを用いた災害分析)
6	1/27(土)	2	Rose Goldman 教授(客)	水と衛生(ケース6:飲料水と健康—バングラデッシュの経験)
7	1/28(日)	1	Rose Goldman 教授(客)	建造環境とエネルギー選択(ケース7:エネルギー選択のためのライフサイクルアセスメントと健康影響予測評価アプローチ、エコロジカル・フットプリント)
8	1/28(日)	2	Rose Goldman 教授(客)	地球温暖化(ケース8:地球温暖化と健康)

D  
P  
H

科目名	産業環境保健学特殊研究	code number : OEH 510	選択必修	12 単位
-----	-------------	--------------------------	------	-------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1～3年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

## 1. 授業の概要

論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。  
(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)

## 2. 授業の到達目標

産業保健・環境保健分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。  
尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。

## 3. 成績評価の方法および基準

最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。  
(詳細については、別途予定されている学位論文に関するガイダンスで説明する)

## 4. 教科書・テキスト

・適宜提示する。

## 5. 参考書

・適宜提示する。

## 6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。  
その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。
- ・研究内容や時期によって研究に使う時間は変動するものであるが、継続的に研究時間を確保することが重要である。

## 7. その他履修上の注意事項

- ・学位申請の手引き等により、計画審査、中間審査および学位審査に至る流れを理解し、数年間の長期計画を立案し実行する。
- ・毎月末、1か月間の学習や研究活動などについて、指導教員に報告する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
<p><b>【概要】</b>                      産業保健や環境保健の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b>                      研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の研究指導教員から指名される。指導日程については当該研究指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(矢野榮二)                      産業・環境要因による健康障害の原因、作用様式、対策等について医学的疫学的に調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(谷原真一)                      労働衛生における三管理(作業環境管理、作業管理及び健康管理)等を通じて集積される各種データを有効活用する調査研究手法について学び、産業現場の問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(原邦夫)                      健康障害の原因となる産業・環境要因の測定・評価および対策等について調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(福田吉治)                      データヘルス計画、健康経営、ストレスチェック制度等に関する健康管理および統括管理について学び、産業現場の健康増進および執権管理につながる学術的研究を指導する。</p>				